



星空の暦



12月14日頃 ふたご座流星群の極大

今年のふたご座流星群は、14日10時頃に極大（活動が最も活発になること）を迎えると予想されています。また15日が新月であり月明かりの影響が少なく、かなり良い条件で観察できます。流星群においては、ある一点(放射点)を中心に全体に広がるように流星が見られます。ふたご座流星群の放射点は、名前のとおり、ふたご座にあります。流星を観察するときは、空全体に現れるので広く見渡すようにしましょう。寒さ対策もお忘れなく。

今月のトピック



12月6日頃 はやぶさ2 帰還

小惑星リュウグウのサンプルを積んだはやぶさ2のカプセルが、地球へ帰還します。12月5日に、はやぶさ2は地球から約22万kmまで近づきカプセルを分離します。翌日6日にオーストラリア南部のウーメラ砂漠に着地する予定です。カプセルは火球となって大気圏を通過した後、高度10kmほどでパラシュートが開いて電波を発信します。火球の観測や電波を手掛かりにしてカプセルを探索・回収をするそうです。5、6日にはJAXAが火球等の様子をライブ配信する予定です。ぜひチェックしてみてください！

今月の星座



オリオン座

赤く輝くベテルギウスと青白く輝くリゲルは、1等星で、それぞれ狩人オリオンの右肩と左足に位置しています。1等星が2つある星座は全天88星座の中で3つしかありません。またオリオン大星雲などの天体を持つなど、特徴の多い星座です。

おおいぬ座

おおいぬ座のシリウスは、全天の中で最も明るい星です。ギリシア語では、焼き焦がすものという意味があります。オリオン座の三つ星を東にたどるとシリウスを見つけられます。シリウスは、犬の口元にあります。こいぬ座と共に、オリオンが従える猟犬の姿であると伝えられています。また、古代エジプトではナイル川の氾濫を示す星とされ、目印に使われることもあります。

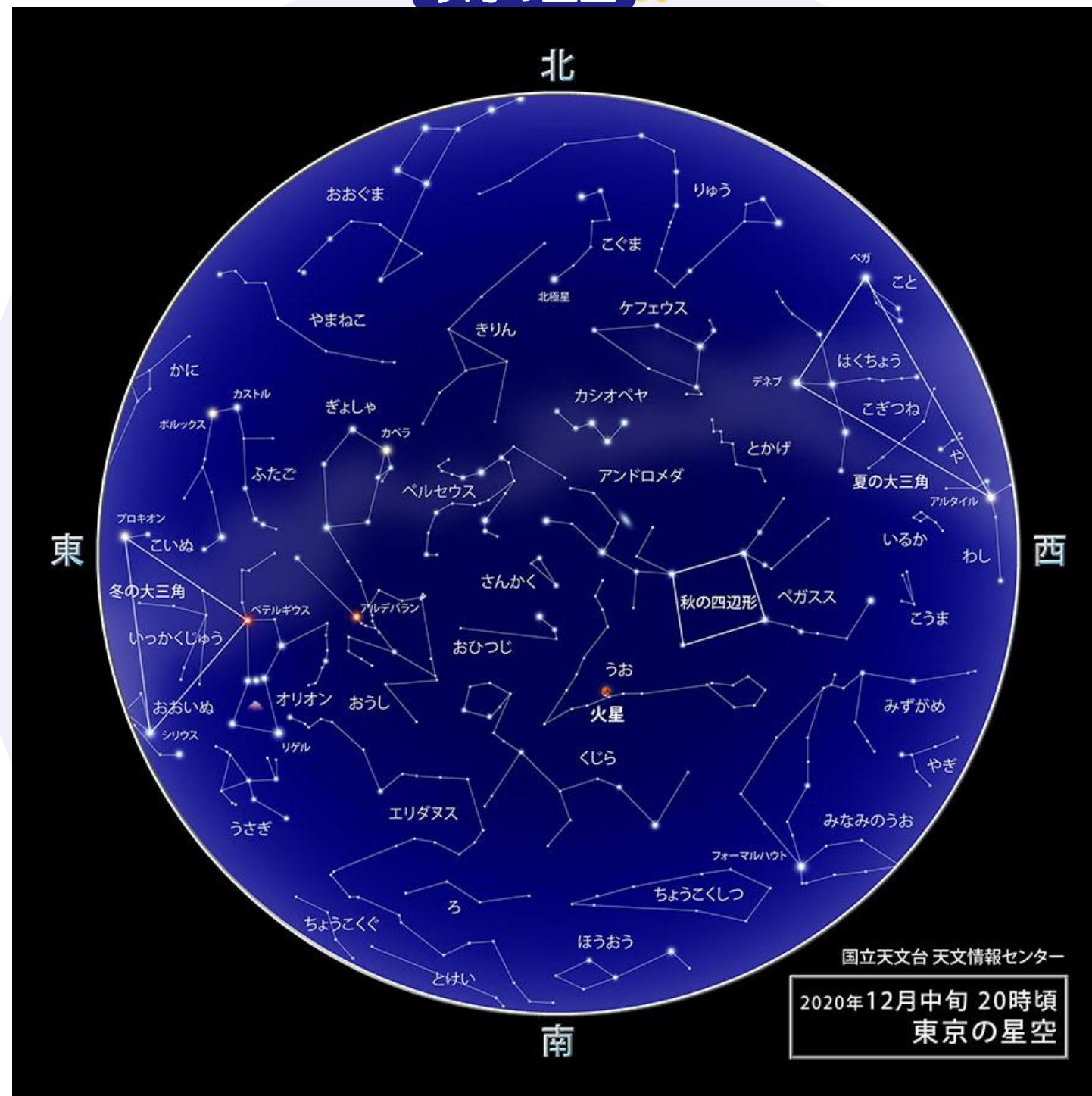
こいぬ座

こいぬ座は、2つの星からできています。かなり小さな星座ですが、1等星のプロキオンは街明かりの元でもよく見えます。こいぬ座はおおいぬ座と共に、オリオンが従えている猟犬の姿を表していると伝えられています。

ワンポイント！

冬の六角

- オリオン座
- リゲル
- おおいぬ座
- シリウス
- こいぬ座
- プロキオン
- ふたご座
- ポルックス
- ぎよしゃ座
- カペラ
- おうし座
- ベテルギウス



国立天文台 天文情報センター
2020年12月中旬 20時頃
東京の星空

季節の小話



お誕生日の星座

＊いて座（11月23日～12月21日頃）
夏の星座で、6つの星がひしゃくの形に並んでいる南斗六星が特徴です。上半身は人間、下半身は馬、というケンタウルスの姿で描かれています。
＊やぎ座（12月22日～1月19日頃）
秋のはじめに南の空に見える、逆三角形の形をした星座です。尾が魚になっている、不思議な姿で描かれています。

二十四節気

＊大雪(7日)…暦の上では、山だけではなく平野にも雪が降り始めて本格的に冬が訪れる頃、とされます。
＊冬至(21日)…『日短きこと至(きわまる)』という意味で、北半球では1年間で一番、日が出ている時間が短い日です。太陽の南中高度が最も低くなることで、太陽光の入射角度が最も小さくなるので海水や地面は温まりにくくなります。